

「緑の植林協力隊」に参加して



世連石川会員 中田 悅

昨年夏、南太平洋上の三百余島から成る斐济共和国ヴィチレブ島で約二千八百本のマングローブを二日間にわたり植えてきた。斐济は、全島が温暖化によりゾート開発、住民自身による森林破壊などで海岸線が浸食・水没し、魚介類の収穫減や海岸線サンゴの死滅等を招いている。マングローブは、海岸を波浪から守り、川からの砂を吸収し、海のサンゴに土砂がかぶるのを防ぐという重要な役割を担ってきた。

このことを憂いた住民の声を受け、オイスカ(OISCA)は一九六〇年代初頭から植林を開始し、その維持管理にも当たってきた。住民の意識づけも大事で、行政・村人・学校等と協力して住民総参加型の植林、さらに環境教育にも力を入れてきた。その結果、植林後二年もすると魚介類の収穫が顕著に増え、サンゴも大きく育ちつつあることが分かった。今では、住民自身が自分たちの故郷をよくしている

こうと積極的に活動しているし、子供たちも学校の敷地に植林したり、地球の緑を育む「子供の森」計画に取り組んでいる。

オイスカ活動



海岸線での植林作業

オイスカ・インターナショナルは、すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界を目指して、一九六一年に設立された。本部を日本に置き、現在二十六の国と地域に組織を持つ国際NGO(非営利組織)である。国内にも県単位に支部や支局、研修センターがあり、主に東南アジア・太平洋地域で農村開発や植林、森林整備などの環境保全活動を展開している。私の所属している富

山ハウズ」と呼ぶ研修施設も設置され、現地でのオイスカ活動の拠点となっている。

なぜ海外で木を植えるのか

世界の森林面積は約三十九億haで、全陸地面積の約三〇%

小代は八九十に活動する学生から、ままでおこなわれる県議会社員、大学生、主婦なり、県議会社員、大学生、主婦など

外部山県海支活動では毎年一四二〇ha(本州面積の三分の二)ずつが失われている。オイスカでは、地球規模で進む森林破壊を人類共通の重大危機と捉えて植林活動に取り組み、また地球生物の共生を目指して行動できる人材の育成を最終理念として掲げている。このことは、世界連邦思想にも通じるものと思う。現地の子供たちが素足で植林を手伝ってくれた姿や村人総出で歓迎してくれた情景を思い出しながら、健康が許すい起こしながら、健康が許すかぎり海外での植林活動に参加するつもりでいる。

（元北陸電力取締役、等伯会常任理事、七尾市在住）

詩 サイレント・シンフォニー

中村 なづな



写真展「時のながれーいとなみ」から
富岡省三(金沢市・国画会)

犬も耳が遠くなつた 呼鈴が鳴つても
名前を呼んでも すぐしげに眠つてゐる
アジアの奥地では まだ言葉のないところ
があつて 相手から目を離したら
つ棍棒で撲られるかわからないといふ
ひとつ屋根の下で 耳の遠いもの同志の
朝も(それに相手には牙があるので)
お互いの目の色を読むことから始まる
撲ることも 撲られることもないが
ときどき彼はほんやりと 母国の山林を
見晴かしている 気位の高い狼は どんなに可愛いがつても林を眺めている
と

ロシア人は言つた 彼にもその血がある
耳が遠いぶんだけ 目に見えないものも
見えると思つていたが ただの「ほんやり」かもしれない

(詩人・世連会員、金沢市)

事務局日誌 (09)

「世界連邦石川」第40号発行
世界連邦旗を2枚新調
事務局会議(石油神社)
第37回全国小学生ボスター
賞に稻亮佑(泉中3年)、前

彰式(東京都)「ボスター
の部」特賞に赤玉裕里子(泉
野小4年)、「作文の部」入

賞に坂万璃子(清泉中3年)、
中東和平プロジェクトin金
沢実行委員会設立(金沢市)
第38回ボスター・作文コン
クール推薦校決まる

世界連邦運動協会定例総会
に平口、関戸出席(東京・
学士会館)

平成20年度会計監査(山上、
山本監事)

平成21年度理事会・総会(香
林坊アトリオサロモン)

編集後記

夏の中東和平プロジェクトや、秋の世界連邦日本大会など大きな事業が今年石川県に集中することから、紙面が平常の形を崩さざるを得なかつた。身の丈を超えるのはと心配しつつも、いずれの事業も成功させなければならない。そしてこれをきっかけに会員が一人でも増えてくれれば大収穫である。そう願わざにいられない。(S)